

文京区基本構想推進区民協議会
子育て・教育部会
(第1回)

日時：平成28年7月19日（火）
18時30分～20時27分
場所：文京シビックセンター地下2階
産業とくらしプラザ研修室

文京区企画政策部企画課

文京区基本構想推進区民協議会
第1回子育て・教育部会会議録

「部会員」	部	会	長	源	由	理	子
	部	会	員	牛	嶋	大	
	部	会	員	長	岡	麗	奈
	部	会	員	浅	見	理	絵
	部	会	員	石	倉	毅	典
	部	会	員	弘	世	京	子
	部	会	員	中	村	雄	介
	部	会	員	加	藤	佑	理
	部	会	員	渡	部	大	祐

「幹事等」	企	画	政	策	部	長	吉	岡	利	行					
	子	ど	も	家	庭	部	長	椎	名	裕	治				
	保	健	衛	生	部	長	石	原		浩					
	教	育	推	進	部	長	久	住	智	治					
	企	画	政	策	部	企	画	課	長	加	藤	裕	一		
	企	画	政	策	部	政	策	研	究	担	当	課	長		
	子	ど	も	家	庭	部	幼	児	保	育	課	長	新	名	幸

※文京区基本構想推進区民協議会会長、大杉覚氏が出席した。

○源部会長 それでは、全員おそろいになりましたので、子育て・教育部会を始めさせていただきます。皆さん、こんばんは。

こちらの部会を担当させていただきます、源でございます。2回目の基本構想推進区民協議会のときは、参加できずに大変失礼いたしました。

本日は、ワークショップ形式ということで、自由に皆さんからご意見を頂戴する機会といたしたいと思っておりますので、2時間どうぞよろしく願いいたします。

それでは、最初に、事務局のほうから出席者並びに配付資料の説明をお願いいたします。

○加藤企画課長 皆さんこんばんは。では、よろしくお願いいたします。

初めに、本日の欠席者ですけれども、出井部会員から欠席のご連絡をいただいております。それ以外の方については、全員出席という形になっております。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

事前に資料を郵送させていただいているものが5点ございます。1点目が、子育て・教育部会の次第になります。2点目が、右肩のところに、分野別部会資料第1-1号と書いてあります部会員の名簿になります。3点目が、分野別部会資料第2号、「基本構想実施計画の今後3年間の方向性及び指標(案)について」というものになります。本日こちらを使用します。続きまして、分野別部会資料第3号、こちらは「平成28年度基本構想実現度評価の実施状況について」、最後になりますけれども、分野別部会資料第4号、「平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理の実施状況について」、事前に送らせていただきましたのが、以上の5点になります。

それと本日、席上に資料を置かせていただいております。1点目が、子育て支援という1枚ものですが、1-1と書かれている、席上に置かせていただいている下のほうに網掛けがしてある資料です。それと、2点目が、黒いダイヤモンドが付いている第3章計画事業という資料になります。これが現在の基本構想実施計画の体系になっております。現在の計画の体系を参考に置かせていただいております。それと3点目が、「ワークショップのルール」についてという1枚ものです。それと、冊子を3冊置かせていただいております。こちら、文京区基本構想、それと今回検討していただきます文京区基本構想実施計画の現行の計画になります。それと最後に、行財政改革推進計画、これも現在の計画で、こちらについても今回検討していただく内容になっております。

資料については、以上です。お手元に資料のない方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それと、本日の会議の記録について、説明させていただきます。記録につきましては、発言者の名前を記載した全文の記録ということで、区民の方に公開させていただきたいと思っております。また、本日のワークショップの状況につきまして、写真を撮らせていただきたいと思います。ちょっと写真に写るのは、という方がいらっしゃいましたら、事務局がいますので、お声かけいただければ、その写真は外させていただきます。また、こういう形で、区民の方に計

画策定の検討をしているというところを知っていただきたいというところもあります。ホームページやフェイスブックで熱心な議論の中で計画ができたということをお伝えしたいという意味もあります。そういうことも考えております。ご連絡いただければ、写真を外させていただきますので、よろしくお願いします。

説明については、以上です。

○源部会長 ありがとうございます。

それでは、今日の進め方について、ご説明をさせていただきます。

まず、先ほどの資料にありました次第にございますように、部会のほうでは、そこにございます3、4、5、6の四つのことを皆さんと2回にわたって意見交換をしていくということになります。

本日は、そのうちの3番、「基本構想実施計画（29～31年度）の今後3か年の方向性及び指標（案）について」ということで、意見交換をしたいというふうに思います。

担当部のほうから、今後3年間の重点施策、重点的に行うこととか、あるいはそれをまた達成したのをどうやって測るのかという指標についてご説明がありますので、それに関するご意見を伺いたいということです。

3番目なんですけれども、こちらの子育て・教育部会につきましては、資料の第2号の基本構想実施計画（29～31年度）方向性・指標（案）というこの冊子の表に、目次がございます。それをご覧になっていただきますと、こちらの資料でございます。第2号の基本構想実施計画（29～31年度）方向性・指標（案）ですが、目次のところに子育て・教育につきましては、いわゆる中項目という形で分類したものが三つございます。子育て支援、それから教育、それから三つ目に、青少年の健全育成ということで、これについての資料がその後ろに付いておりますけれども、本日は、子育て支援、それから教育、この二つについて主に意見交換をしたいというふうに思っております。

三つ目の青少年の健全育成については、2回目の部会で、もし早く終わりましたら三つ目をやるかもしれませんが、そのような予定でやりたいというふうに思っております。

本日の対象につきましては、よろしゅうございますでしょうか。

また、本日席上に、「第3章計画事業」というものがございますけれども、こちらのほうをご覧になると、今申し上げた中項目の分類が三つあるんですが、中項目ごとにどういう事業が実施されているのかということがご覧になれます。今後、意見交換の中で、このような点も少しご参照いただきながら進めていければなというふうに思っております。

それから、今回のルールの説明というのをちょっとさせていただきます。

今回ワークショップ形式ということで行いますけれども、ワークショップのルールという1枚の紙がお手元にあると思います。もう既に他の部会にご参加された方もいらっしゃると思いますが、改めてまた説明させていただきます。

ワークショップですので、自由に意見交換をしたいということが、基本的な目指すところであり、ます。当然区民といっても、いろんな方がおられ、そして、いろんな役割とまた立場が違ふと思ひます。そういう多様な意見があるからこそ、より良いアイデアが生まれるというのが前提にあります。ですから、そういう多様な皆さんのこれまでのいろいろなご経験とか、お立場とか、普段考へていることを是非自由に出していただきたいということで、こういうポストイットを使って意見を書いていただくというやり方で行ひます。ポストイットを使ひます。

そこに囲ってあるところに、ルールなどが書いてありますけれども、正しい答えをここで求めているというよりも、皆さんがどう考へているかということで、また意見交換の中で妥当なというか、よりまた新たなアイデアを頂戴したい、生み出していききたいということが1点ござひます。

それから、原則として、議論をする前にカードに書いていただくことでやりますが、もちろん意見交換をした後に、カードにまとめて書いていくということもやります。

まず最初に、皆さんに意見を書いていただき、貼り出してから、そしてまた意見交換をするというふうなこと、時間の許す範囲でやっていきたいと思ひております。

ポストイットは何枚もありますので、複数のご意見がありましたら、何枚も使ってください。1枚のカードには、一つの意見ということでお願いしたいと思ひます。

それで、今日は、先ほど申し上げましたように、今後3か年の方向性と指標についてお話しをしますので、色をちょっと分けたいと思ひます。皆さんのご意見が方向性、ここで言う方向性は、この3年間にどういうところに重点を置いてやりたいというご説明が後でござひますので、それに関するものでしたら、こっちのいつも迷うんですけどもこれが何色ですかね。ブルーグリーンみたいな曖昧な色ですが、こちら。そして、指標に関すること、その重点的にやることに対して本当にできたかどうか、どう進捗しているかというところを測るというか、どういうふうに見ていくかということに関しての案もご説明がありますので、それに関しては、ピンクに書いてください。どちらか判断しにくいということだったら、どちらの色でももちろん結構ですけども、そんなふうな分け方で進めてまいりたいと思ひます。

今から担当部の方からご説明をいただきますが、ご説明があつたことに対してのご意見もあれば、もっとこういうふうな見方をしたほうがいいんじゃないのというご意見もあると思ひます。両方もちろんウエルカムですので、自由にその辺りはご意見を頂戴できればなと思ひます。

目的は、今後3年間、より良い活動を行い、事業を行い、施策を行い、子育てとか教育に関してより良い成果を上げていくための意見交換というふうに思ひます。

何かこのところでご質問等がありますか。よろしいですか。

それでは早速、最初の子育て支援ですね。先ほどの中項目のところの子育て支援のところに関します3年間の方向性と指標の(案)について、子ども家庭部長からご説明をよろしく願ひいたします。

○椎名子ども家庭部長 皆さん、こんばんは。よろしく願ひいたします。子ども家庭部長、椎

名でございます。それでは、座らせていただきます。

今ご説明がございました、まず子育て支援のほうでございますけれども、資料の最初のページ、将来像の実現に向けた、現状と今後3か年の方向性という差し替えの部分がございますので、そちらのほうの差し替えられた部分を見ていただきながら、ご説明をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、こちらの資料に基づいてでございますが、最初の一番上のほうに書いてあります将来像ということでございます。地域の思いやりにあふれた「おせっかい」の輪の中で、みんなが楽しく育ち合えるまちという将来像でございます。

2番目として、将来像の実現に向けた、現状と今後3か年の方向性でございます。網掛けの中のところでございますけれども、まず人口面についてのことを記載してございます。乳幼児人口等が増えている状況、また合計特殊出生率、これは一人の女性が一生に子どもを産む人数ということになりますが、そういった人数が回復していると。こちらのほうには記載はございませんけれども、文京区においては、平成10年ぐらいは1年間に生まれる人数が1,000人ほど、1,042人だったのが、平成17年ぐらいには1,200人台に乗ってきました。そこまでは少しずつの増え方だったんですが、平成26年では1,900人を超えてくるということで、2,000人に近づいているというのが、現在の状況ということになります。合計特殊出生率も伸びてきているというところでございます。

とはいいながら、平成26年度、1.13ということになりますので、国に比べて、例えば1.42であるとか、直近の国が、1.46であるとかに比べると、そういった面の指標としては、まだまだ少ない状況というふうな形が背景にあるというふうなところでございます。

このような中、出産や子育ての不安を軽減するような、妊娠から出産、子育て期に対する環境づくり、こういった支援が必要になってくる。またライフスタイルや就労形態の変化、こういったものにも対応していく必要があるというふうなところが背景にございます。

そして、方向性として幾つか書かせていただきました。まず一つは、今申し上げたとおりでございますけれども、妊娠から切れ目のない支援を行っていくということが一つ目。また、子ども・子育て支援新制度、これは平成27年にできたものでございますが、こちらに基づいて、幼児期の教育や保育、幼稚園だとか保育園、認定子ども園、こういったものの質を伴いながら拡充をしていこうというようなことがございます。

さらに、全ての子育て世代への支援もしていくというところでございます。

それと、一時保育や育成室も書いてございますけれども、育成室や放課後全児童向け事業、こういったものをやらせていただくというような方向性を示させていただくとともに、子どもの貧困、皆さんもこのごろよくテレビなんかで聞くと思うんです。子ども食堂とか、そういった話題があります。そういった面についても、区としても、一定の対応をさせていただくとともに、最後のほうに、なお書きで書いてはございますが、児童福祉法の改正に伴う内容でございます。こ

ちらのほうとしては、ついこの間の5月の末、5月27日、国会で、児童福祉法の改正がございまして、児童相談所は今まで特別区ではつくることができなかったんですが、今後は特別区でもつくることができるというような形になってございます。文京区としても、虐待の未然対応、また確実な対応等をしていくためにも、そういったものも早期に対応していくというような形の方向性を示させていただいたというところでございます。

それでは、具体的に、指標としてはどういったものを設定したかというのが、次のページでございます。

指標としては、四つ設定させていただいております。まず一つ目が、2ページのほうの上からでございます。子どもの健やかな成長と子育て家庭の健康の支援ということでございます。妊産期からの切れ目のない支援といたしましたけれども、妊婦全数面接の実施や乳児家庭全戸訪問調査の訪問率、こちら指標とさせていただいたというところでございます。

指標のポイントとしては、きめ細やかな面接・訪問により、妊婦や乳幼児などと心と体の健康が保たれるというようなことでございます。

設定理由のところにも書いてございますが、3行目、そのために保健師や助産師の専門職が全ての妊婦に対して面接を行ったり、生後4か月以内の乳児のいる全ての家庭を訪問したりしながら、切れ目のない支援をしていくという内容でございます。

その下の段にございまして、目標設定でございましてけれども、実施率を指標の目的としてございます。

妊婦全数面接に関しては、平成27年度の実績を踏まえたパーセンテージ、また、全戸訪問に関しても、そういった形で訪問率88%を目指すというのが一つ目の指標でございます。

次のページが二つ目の指標でございます。

乳幼児の保育や教育などの量の拡充や質の向上ということで、保育サービスの事業量を設定させていただきました。保育所の整備などにより待機児童対策を図るということでございます。

こちらのほうは理由にもあるとおり、私立認可保育園を中心とした整備、今現在私立認可保育園は35園ございますが、こういったものを更に整備していくというところでございます。

今現在こういった形で、定員数というのは、様々な定員がございましてけれども、4,000人程度、合わせて、ここ4年で1,200人程度確保した、定員を設定したというような形になってございますが、さらに、こちらのほうを推進していく。実際の目標値というのは、なかなか目標について毎年度の見直しだとか、そういったものが必要になってくるということもございまして、**「子ども・子育て支援事業計画」**に基づく整備目標ということで、この改定に基づいて目標値も変えていくというような形でございます。

その次が下でございます。

保育園・幼稚園利用者の保護者の満足度ということでございます。ここで、ニーズがどこまで測られているかということで、区立保育園や区立幼稚園、こちらのほうの満足度について、アン

ケート調査のものを数値で設定させていただいたというものでございます。

さらに、次のページでございます。

子育て支援の充実ということでは、学童保育、育成室の利用者の保護者満足度、こちらのほうも指標とさせていただいたというところでございます。ニーズに沿った質の高い保育サービスが提供されるということで、アンケート調査、これも過去の実績を踏まえて、おおむね85%を目標として毎年1%の増加を目標とするというものでございます。

簡単ですけれども、説明は以上になります。

○源部会長 補足ですけれども、ご参考までに。今ご説明があったような指標に関しましては、資料第3号という資料の平成28年度基本構想実現度評価の実施状況という、今日はこれを使いませんが、こういったものがあります。これは昨年度のものを評価したもので、こんな形でこれらの指標が使われていくという、指標の位置付けということでご説明いたします。これについては、次回の2回目のときに話をするということになるかと思えます。

今のご説明に関して、話し合いをする前に、ここのところがよくわからなかったとか、何かご質問ありますか。事実確認等でよろしいでしょうか。

それでは、先ほど申し上げましたように、どちらのほうでも結構ですので、皆さんにご意見をいただけたらというふうに思います。

3年間の方向性に関して、もっとこういうことが必要なんじゃないかとか、あるいはここはどうなんだとか、あるいは指標に関して、指標はとてもよかったとかでもいいんですけれども、もっとこういう見の方が普通なのではないか、これはどうなの、この辺は自由に書いていただければというふうに思います。皆さんのものをいただいて貼ってから、少し分類しながら意見交換を始めたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

では、よろしく願いいたします。5分間、少し時間を置いてから。

(意見抽出)

○源部会長 それでは一旦、意見交換をしながら、これも言いたいとなったら、どんどん出して足していただけたらと思いますので、こちらの指標と結構関係しているカードもあったので、ちょっとその辺りは、また皆さんにご意見を伺いたいと思います。

読んでいきますので、書かれた方でご説明があればお願いしたいと思います。

まず、こちら辺りにまとめたのは、もしかしたら全体の考え方に関するものです。子育て支援をまず定義してください。乳幼児までか、小・中学生をも含むのか、そんなふうなご意見です。何かご説明、はい、お願いします。

○石倉部会員 私が書いたんですけども、ちょっと資料を読ませていただくと、曖昧な部分がまずあるかなと思います。内容自体が、やはり幼稚園や保育園といったところに重点があるように感じましたので、まず子育て、私は、小学生の子どもを持っておりますので、そこまでを含めて施策として展開していくのであれば、そこをまず範囲をきちんと明確にした上で書かないと、非

常に偏った書きぶりになるんじゃないかと、そこを危惧しております。

○源部会長 逆を言えば、もし小・中学生を含むんだとしたら、そちらはあまり入っていないんじゃないかということですか。

○石倉部会員 そうですね。育成室という話がさっき出たんですけれども、この一つだけなので、バランスを欠くんじゃないかというふうに考えました。

○源部会長 バランスを欠く、ということですが、これは子育て支援の定義というのを、ちょっとお伺いしてよろしいでしょうか。

○椎名子ども家庭部長 通常子育て支援がどこまでかについては、児童福祉法の範囲内ということになると、18歳未満になると思うんですけれども、今回だと、例えば、子育て支援と教育とまた青少年とある中で、この子育て支援といったときに、ターゲット自体を、例えば小学生までと決めているわけではございません。一応メインターゲットというか、中軸的に今回取り組む中では、そういった形、未就学児や小学生なんか、正に中心とした施策が必要になっているので、高校生についてもそういった方向性をお出ししているという形です。小学校と中学校と教育の支援だとか、またそれ以上だと、青少年の健全育成とか、そういった形でもカバーできます。

○源部会長 そうするとターゲットごとに少し違う。

○椎名子ども家庭部長 子育て支援は、小学校で切れているわけではないというのはあります。

○石倉部会員 切り方の問題なんですね。縦に切るか横に切るかという話で、今のこの項立てを見てみると、どうも子育ては幼稚園、低学年というか、小さいお子様をターゲットにしていて、教育がいわゆる小・中学生をターゲットして、青少年というと、もうちょっと上のお兄ちゃん、お姉ちゃんというところの印象を受けましたので、そういう切り方は切り方でいいんですけども。そうすると、子育てというところについて育成室が入ってきてしまうので、ちょっと何か入り込んでいるのかなという印象を受けたものですから、その辺りをちょっと整理した上で、施策を掲げたほうがわかりやすいんじゃないかというところをちょっと書いています。

○源部会長 バランスということですね。ありがとうございます。

次、環境づくり、スピード感、切れ目のない支援とあるが、もう少し具体的なほうがわかりやすいんじゃないか。ちょっと抽象的ではないかということですね、加藤さんどうぞ。

○加藤部会員 私の感覚で書いたもので、ちょっとどうなのかわからないですけども、前回のコミュニティ・産業・文化の部会に出たときに、例えば、そこでは都内での創業を促進しますだとか、割と政策に近いようなことを書かれていたので、そういったところに言葉の流動感といいますか、こちらがすごく環境づくりとか、スピード感とか、一体となったという言葉が書いてあるので、もう少し踏み込んだ内容があってもわかりやすいのかなと思うので、ちょっとコメントさせていただきました。

○源部会長 切れ目のないというのは、どういうふうに、具体的にどういうこととか、そういうのですかね。ということです。そこら辺をまた考えていただいて、ありがとうございます。

保育教育の質的向上の内容について、中村さんどうぞ。

○中村部会員 こういうことを考えたからです。最近思いがけないような事故が、事件が多いですね。それを聞かされたときにいつも、事件を起こした親御さんが子育てに迷ってしまって、本当の意味の家庭教育的なことを受けていないということを聞く機会が多いものでね。うまく親御さん、どういう育ち方をしたかと、私みたいに長く生きてくると、今の本音をこうして。親の都合、親の世代ではね、いわゆる高度経済成長期だったんですね。そのために両親とも一生懸命働いていた。働くことはいい、幼稚園で子育てのほとんどやはり成し得なかった、時間的にね。そのひずみがお孫さんに出ているということ、この間痛感することがありました。

ですから、保育園の中の質的なものというのは、そういう価値観的なものを伝えていただきたいということですね。

○源部会長 なるほど、そういうご要望ですね。これはもしかしたら、こっちにあるかもしれませんが、回数だけじゃなくて、質的なものも書いたほうがいいんじゃないのというのにつながるかもということですね。

○中村部会員 そういうことです。

○源部会長 もう一つ、これも中村さんだと思うんですけども、おせっかいとプライバシーとの関わり。

○中村部会員 歳をとると言いますのでね。戦前のおせっかいやきのね、迷惑さを体験しています。それと、戦後のプライバシーとか、プライベートな問題について過剰じゃないかということが言われますね。そこにおせっかいという言葉とプライバシーというのは矛盾があるんです。その矛盾をどうやって乗り越えるかということが非常に大切なことだと思いました。

○源部会長 ありがとうございます。地域の中で子育てをするとか、そういうことにつながるということですね。ありがとうございます。

次に、これは多分（1）と書いてあるので、一つ目のことですね。1回の訪問だけで十分かというご意見ですね。渡部さん。

○渡部部会員 私が書きました。2年前に妻が出産して、そのときに、確か1回訪問していただいたんですね。仕事から帰って「今日来たの」といったら「来たよ」と。でも、それで終わっちゃったというのがあるので、訪問率でもいいんですけども、もうちょっと質的なものもあってもいいのかなと思います。

○源部会長 質的なものもあって。これは、ですから指標にもつながるということですね。訪問をしていけばいいというものじゃないでしょう。そういうことですね。

指標にちょっと関連するものが出ています。ありがとうございます。

自宅の訪問のみを代表的とするのは疑問。現在あるIT、SNS等を使った施策も展開すべきであるというご意見ですね。

○石倉部会員 私が書きました。今お話が出たように。

○源部会長 関連するんですね。

○石倉部会員 はい。要は、訪問することが目的にしかねない指標だというふうに思っております。今出たように、1回訪問すれば、我々はやっていることをやったんだというその説明に使われかねないので、本質的な問題じゃないと思うんですね。やはり対象となっている妊婦さんたちが、いろんなことで不安に思っているのです。そういったところをちゃんと酌み取れるような施策も含めて方向性に示すべきだと思っています。

○源部会長 妊婦さんたちの何というんですかね。訪問してもらったことによって得る変化みたいなことですかね。

○石倉部会員 訪問がいいというわけではなくて、ツールは今いろんな形があるので。

○源部会長 いろんなものがありますよね。

○石倉部会員 そういったもので、例えば、メールなりなんなりで情報共有することは可能だと思います。

○源部会長 はい、ありがとうございます。ということです。今の渡部さんとも関連するようなご意見だと思います。

次、乳児家庭全戸訪問のように、出生率が上がり、訪問対応が大変になることは、大方予想がつくもので、事業リスクや環境変化に対応できるように何か対策はしているのでしょうか。

○加藤部会員 私も去年出産をして訪問していただいて、まず部屋が赤ちゃんに対応しているかみたいなどころで見ていただけたので、すごく質はいいものだと思っていて、ほかのところにもちょっと書いたんですけれども、訪問数だけじゃなくて、満足度を実際にアンケートして、ここに反映させてもいいのかなと思いました。今の話を聞いて。

○源部会長 こちらにもあります。

○加藤部会員 そこで書いた内容は、目標が毎年1%ずつ上がっていて、それに対して、達成できた、できなかった。また、出生数が増えたからということを書いてあったんですが、増えるのはもう予測されていて、国もそういう政策を打っているのです。増えたからできませんでしたというのは回答にならなくて、そのために何かをしていたけれどもできなかったみたいな、もうちょっと踏み込んだことがあると、何か一子どもの母親としては納得できるのかなと思いました。

○源部会長 なるほど、そういう説明が欲しいということですかね。

○加藤部会員 そうですね。

○源部会長 こちらに関しては、こちらの指標が訪問率だけで見ているということにもつながっていくというふうに思います。ありがとうございます。

次に、こちらは多分2番目ですかね。私立保育園のリスクはということなんですけれども。

○渡部部会員 私は、千石区地区に住んでいるんですが、私立保育園がたくさんできています。それは本当にありがとうございますなんですけれども、中には、職員さんもすぐに一斉にやめちゃって、みんなが待機児童になったりしてというのを、耳に挟んだんですね。まず、私立保育園

にフォーカスをしている理由は何なのかというのと、そのリスクをどう評価しているのかというのをちょっと聞きたいなと思います。

○源部会長 これもこれもそうですかね。私立保育園としている理由は、今のお話。それから、もう一つ待機児童になったときの支援は、こちらのほうは。

○渡部部会員 これも私ですけれども、妻の友達で待機児童になったお母さんたちに聞いていると、やっぱりもうにっちもさっちもいかないと、もう困ってしまっていると、その支援もあつたらいいのかなと思う次第です。

○源部会長 こちらに関して、もしよろしければ何か一言いただけますか。

○椎名子ども家庭部長 私立だけというわけでは、もちろんありません。例えば、昨年で言えば、お茶の水女子大学の関係もございますし、このすぐ近くでは、春日にもあります。千石地区というお話でしたので、千石地域の土地を区が購入して、そこでやっていこうというようなものもあるんですけれども、やはりスピード感と一定の量というのを推進していくというのでは、私立も巻き込んだ形での整備、これもやはり欠くことはできないと。そういった面で、若干そのようにシフトしているように見えるのかなとは思っております。

そういったところがあっても、様々な会社が入ってくる中でも、認可保育園という一定のレベル、もちろん確保されつつではありますが、その辺は、例えば、区のほうの巡回指導だとか、そういったものも合わせてやっていただいて、安全と一定のレベルを確保しながら進めていこうというふうな考え方でございます。

○源部会長 今出ましたよ、スピード感という言葉が。一つのアクションですか。あと今、追加で、私立保育園を取り込むための政策を評価してはどうか。どうぞ。

○加藤部会員 実は、聞いた話なのできっちりとお伝えできるかわからないんですけれども、文京区じゃなくて、葛飾区とか別の区だと、新規で私立保育園がその区の中に入る、新しく園を建てるだとか、新規事業として始めるというのは難しい。なぜなら、区の中で10年以上保育した経験があることが条件になっているみたいな話を伺ったんですね。

それと比べて、文京区はいろいろ新しいのができているので、そういうことは逆に評価できるのかな。そういったことを何か評価の指標に入れてもいいのかなと、今聞いて思いました。

○源部会長 もし重点に入れるのであれば、そういったものもどうでしょうかということでございます。

続きまして、現在の問題の解決への教育力と書いてございます。

○中村部会員 これは私です。私は最初から、地区委員であると同時に、障害者の一人として参加させていただいたわけです。障害者であることがほとんどで、差別解消法なんてできました。しかし、差別という社会的な全体的な大きなことをどうしていくか、解消できるかという、やっぱり教育だと思うんです。そういう意味で、このセッションに参加させていただきました。

教育というのは、常にある種の希望を持って、なされていると思います。ただ読み書き算数だ

け教えればよいというものじゃなくて、やっぱり人間どうあるべきかということで、一つの価値観に向かっての教育だと思うので。そのことについて、ここで検討され、そして、ひいては障害者の差別の問題、これは障害者だけじゃないと思います。差別の問題はね。いわば、もう社会的に差別の問題は大変な事件が毎日起こっている、その根源にあるのは何なのかということをお互いに知り、そして理解し、そしてそれをどうやって克服するかということをお話し合ったらいいんじゃないかという思いで書きました。

○源部会長 ありがとうございます。この後、教育という中項目もございます。また、そこでも中村さんの今の発言をお願いできればと思います。ありがとうございます。

ごめんなさい、まだここにありますね。これは多分これとこれがマッチングしていないので真ん中に置いたんですけれども、そういう理解でいいかどうかかわからないですが、豊かな人間性として何を求めるのか、目標と指標がマッチングしていない、ということです。

○石倉部会員 私が書きました。今目標として掲げられていますのが、いわゆるアンケート調査で、人の役に立つ人間になりたいということでのアンケート結果なんですけれども、そもそも豊かな……。

○源部会長 こちらは、次の項目ですかね。

○石倉部会員 失礼しました。

○源部会長 次にとっておきます。次の項目で議論するときに、貼りますよ。一番最初に。

では、指標かなと思われるものを、こちらに貼らせていただきました。

これも個々の指標よりも、まず最初に全体的な話だと思います。そもそも31事業を実施しているのに、指標が四つしかないのは、不自然なのは。重点的なものということで四つというご説明をお願いします。

○加藤企画課長 この基本構想実施計画の中には、全部で250の事業があります。それについては、事務事業評価という形で、毎年全部の事業を評価しております。今回は、この3年間の大きな方向性について評価していただくため、代表的な指標ということで、各分野四つ程度出しております。

○源部会長 ですから、これが代表的でいいかどうかという視点はある。そういう意味では、この三つですね。それはあるかと思います。ありがとうございます。

次、児童相談所や子ども食堂の話もあったが、現状を示すデータや実施施策は、指標に入れいいのか、現状を示すデータという形です。

○加藤部会員 今のお話にちょっと近いんですけれども、小さい子どもの保育に関する指標が出ていて、ただ3年間の方向性の中だったり、先ほどのお話の中だと、子ども食堂とかに支援をするみたいなお話があったので、そういった指標も入れていいんじゃないかと思います。そういったものを入れるときに、今こういう数字だからこうした目標となる数字の前提条件を示されないと、文京区はすごい豊かなんでしょうみたいなイメージがあるので、教育に熱心でしようみた

いなイメージがあるので、まだ実感がわかないだろうということでした。

○源部会長 いわゆるベースとなるデータが欲しいということですね。これは多分、実績評価のときなんかは入っているんですかね。そういう情報もオープンにしてほしい。

○加藤部会員 私が知らないだけです。

○椎名子ども家庭部長 子どもの貧困に関しては、今言われたとおり、文京区でどうなのかなという話があったという話ですけれども、じゃ全くないのかというと、それもどうなのかな。例えば、生活保護受給者の方の中で、子どもさんがいる方もいらっしゃる。実は、そんなに多くはないんですが、所得水準はかなり低くても受けていない方がいるかもしれない。そういった意味では、生活保護ではなくて、生活困窮者自立支援法というのがありますけれども、そういったものでカバーする範囲はどうかなとか、要は、区内で子どもの貧困もどういう形で把握していこうかということを含めながら、今検討を始めているというところの段階です。何か具体的なものは、ちょっと出していけるというのは、ちょっと難しいかもしれないです。

○源部会長 多分、指標で効果を見るんでしょうけれども、それを見るときに、現状を示すものが欲しいということですよ。

○加藤部会員 はい、お願いいたします。

○源部会長 次、指標の目標設定が甘い。努力し、知恵を出さねば達成できないレベルとすべきではないか。

○石倉部会員 私が書きましたけれども、私自身が附則をつくる立場に昔いましたので、よくそのときに議論したのは、現状のまま予算を執行していけば達成できてしまうレベルがあるんですね。それでは、高い目標は実現できませんし、かつ、リノベーションが起こらないので、やはり優秀な方たちがそろっているかと思しますので、そこでいろんな方々と議論し、どういう政策を本当に打ったら効果が出るのかというところに価値があるんだと思うんですね。よりよい区になる意味があると思うんです。

ですので、やれば届く目標じゃなくて、ちょっと背伸びをしたレベルで、目標を設定するというのが、これは基本的な考え方ですので、そういったところを、工夫されたほうがいいんじゃないかと思います。

○源部会長 というご意見です。そうですね、通常目標はちょっと頑張ればというレベルに設定するものと定義されていますね。ただ、達成されなかったときにもね、本当は達成されなかったのはなぜかということが重要なんだけど、達成されなかったということだけが表に出ちゃうので、そこが嫌なところですよ、現場としては。はい、ありがとうございます。

こちらは放課後全児童向け事業の、これは指標の具体的なものですね。もう一つの、これは3のほうですか。

○牛嶋部会員 一応ここに、1-1の。

○源部会長 ごめんなさい。1-1。じゃこちらですからお願いします。

○牛嶋部会員 もう半分ぐらいの小学校で、放課後全児童向け事業が始まっていると思うんですけども、結構いろんな事業者がやっていたり、いろいろあって、利用者数とか、そもそも日数が学校によって違ったりとか、いろいろばらつきがありますので、そこを割と普及のほうとか、割と早目に、全校実施になりそうで、その中身の評価もしていったらどうかと思います。

○源部会長 中身の評価をしていったらどうか。ここの満足度とかそういう質問のところかどうかですね。

○牛嶋部会員 ええ。

○源部会長 ということです。同じように1に関しては、先ほどちょっと出ました、これは児童数の増加で、訪問率88%が実現可能か。

○渡部部会員 私が書いたんですけども、訪問率を指標とするならば、2,000人近く生まれているという中で、例えば、88%というのは可能なのかなというのが、単純な疑問としてお聞きしたかったわけです。低いんじゃないかという話もありましたけれども、実現可能なのかということですね。

○渡部部会員 そうです。

○源部会長 これは質問ということですかね。よろしくをお願いします。

○石原保健衛生部長 妊婦の全数面接というのは、昨年度からスタートした事業でして、昨年度の実績というのが76.4%でありました。この全数面接につきましては、基本的に、妊婦さんが、妊娠した早期になるべく面接をさせていただいて、必要な相談をしやすい環境をつくるということを目的にしていますので、76.4%から約4%上げて80%を目標にしたいというようなことで設定したところです。

88%につきましては、これまで全戸訪問事業というのは、ずっと継続してやっております、最近やはり対象者が非常に文京区内で増えているということと、相談の内容が非常に困難なケースが増えているということがありまして、88%ということで設定をさせていただいております。この数値につきましては、担当の保健師、助産師も一定程度頑張っ、88%を達成したいということで設定をしたというところです。

○源部会長 はい、ありがとうございます。そこら辺のレベルの設定は、またよくお考えいただくということで。

○牛嶋部会員 この辺の目標を上げるのを、今いる人が頑張っって増やそうというのと、そもそも人を増やすことで対応しようというのと二つあると思うんですけども、どちらになるんですか。

○石原保健衛生部長 現状では、人の確保というのは難しいところもございますので、現状の人員で達成したいというふうに考えてございます。

○源部会長 今いる人で頑張ろうということだそうですね。

同じように、ここのところは指標がアウトカムではない、訪問率はアウトカムではない、妊産婦の満足度とすべき。

○石倉部会員 今までに出てきているとおりだと、満足度とかそういった部分です。

○源部会長 アウトプットの指標ではないかというご指摘でございます。ご検討ください。

2番目の指標です。現状認識が区の実績しかない。全国値などと比較できるものを載せるべき。

○石倉部会員 これも私ですけれども、先ほど、加藤さんからも意見が出ていますが、いわゆる、ぱっと見たときに、区だけではいいのか悪いのかが判断できません。いわゆる参考値として都がいいのか、全国がいいのかちょっとわかりませんが、そういった数字の中で、区が高いレベルにいるのか、若しくはもっともっと頑張らなきゃいけないレベルにいるのかということ、見た人がわかるようにということで工夫していただければと思います。

○源部会長 比較は目標値でやっているけれども、でも全国はどうなんだろうということも知りたいんだということでございます。

次に、待機児童数を指標にしない理由は何でしょうか。待機児童数は指標にしたらいんじゃないか。

○渡部部会員 待機児童は多分キャッチーな言葉だとは思っているので、待機児童ゼロかという、すぐご家族の人、いろんな人に響くと思うんですね。もし、子育てをしやすい区、共働きができる区にするのであれば、待機児童数というキャッチーなところにあえて目標を設定して出されていくと、非常に周りから見ると魅力的に映るんじゃないかなというので出しました。

○源部会長 というご提案です。次。

こちらのほうは、アンケートの仕方なんですよね。皆さんアンケートの仕方にいろいろ疑問を持ったようです。ちょっと全部読みますので、ご発言をお願いしたいんです。私立保育園、幼稚園のアンケートは、行うんでしょうか。これは質問ですね。それから、区立幼稚園保護者アンケートを無記名にしないと意味がない。

○長岡部会員 記名制なんです。だから、みんなびびって書かないんです。

○源部会長 そうすると、満足度が上がるみたいな。

○長岡部会員 そうなんですよね。なので、ちょっと無記名にしてほしい感じかなと思っています。

○源部会長 なるほど、本当のことを書けません。

○長岡部会員 はい、書けないというそういった状況があります。

○源部会長 こちらはどうですか。私立保育園・幼稚園のアンケート。

○浅見部会員 私立幼稚園、私立保育園も入れていた者なんですが、待機児童は、私立保育園にと言っている割に、アンケートは行わないというのは、どういうふうなこと。

○源部会長 こちらのほうですよね。

○浅見部会員 そうですね。アンケートは区だけだと。

○源部会長 どうなんでしょうね。都合がいいじゃないかというご提案ですね。

○浅見部会員 だと思っただけです。

○源部会長 こっちで言っているからですね。あと一つ私立保育園を取り込むための政策も評価したらというのと、これは関係するんですね。はい、ありがとうございます。

利用できていない人の満足度あるいは意見も入れるべき。待機児童になった人、育成室利用できない人、そのとおりですね。利用している人だけの満足度だと。

○加藤部会員 これは多分、高くなるのは当たり前で、利用できていない人が結構不満を持っているので、保育園に入れなかったから他区に移動してしまうみたいなことも起きるので、そこを解消するためにいろんな施策を打っていると思いますが、そのことに対しての評価に近いのかも入れないですけども、ここに入れていない人たちも入れていいんじゃないかなと思います。

○源部会長 つまりこの文京区の何というのかな、支援に満足していますかという感じですね。

○加藤部会員 そうですね。区民の活動を対象にしている区民が入れていない部分があるかと思っています。

○源部会長 というご意見です。

次、アンケート結果を指標とする際、インターネット等でも回答できるように工夫できるのではないか。これは何ですか。

○石倉部会員 やり方の話だと思うので、通知は小学校だと全生徒に配って、書いて、回収してと、手間暇が掛かるので、そんな手間暇を掛けるぐらいだったら、今いいツールがあるので、そういったものを活用されたらどうですかということです。

○源部会長 教育にかかわらず全体に対して、利用者の満足度そのものを反映したらどうか。

○加藤部会員 教育もそうです。教育の内容に関しても、それ以外のことにしても、利用者に対して満足していますかという質問をそのまま、この政策をそのままアンケートにしてもらってもいいのかなと。そうすると、割と点数じゃない、定性評価ができるのかなと思いました。

例えば、それは訪問してもらったときでもいいですし、住民票をとろうとして待っている方に、アンケートにお答えくださいみたいな感じで聞いてもいいし、それをネットとかを使って区民の人にもランダムに送って、回答してくださいと返ってきたものを数字にするだけでも参考になるのかなと思います。

○源部会長 さっきの、保育園に行っていない人の意見も関係しますよね。近いですよね。それこそ行っている人だけに絞るんじゃなく、もう一つ、ちょっと近いので、私立保育園の満足度も含めて評価したら、これは先ほど。

○牛嶋部会員 これは私ですが、保育園の場合は、今現状、区立保育園の満足度は割と高目に出ていると思うんです。これに必ずしもみんな、要するに、区立と私立を自分で選択できているわけではなくて、やっぱり区立に入りたけれども私立になっちゃったみたいな人もそれなりにいるかと思うので、やっぱり区の事業としては、私立も含めた上で保育サービスの満足度というのを評価したほうがいいのではないのでしょうかということです。

○源部会長 先ほどもちょっと私立の話がありました。

ということで、以上皆さんのご意見をいただきまして、ご質問に答えていただいたりしましたが、次はどうするかということを検討する上で、今回意見を頂戴するという形になりますが、よろしゅうございますでしょうか。はい、ありがとうございます。

では、ちょっと時間がオーバーしているらしいので、すぐ次に、二つ目は教育ですね。もう既に石倉さんのは貼っていますから、教育のほうを、まずご説明をいただいてから。

それでは、教育推進部長、よろしくお願いします。

○久住教育推進部長 改めまして、こんばんは。教育推進部長の久住です。

それでは、5ページ以降、教育の分野についてのご説明を申し上げます。

将来像として10年後の将来像を、基本構想では、豊かな環境と人とのかかわりの中で、子どもが「個」として尊重され、共に学び合うまち、この実現を3年やってきたわけですが、次の3年に向けての現状と、それから今後3年の方向性を次に示しています。

現状認識については、三つ指摘をしています。

一つは、年少人口が増加をするということは、先ほどもありましたけれども、28年度において区立小学校が増加傾向にあります。区立小学校については、増加にあるんですが、区立中学校については、おおむね区立への進学率が50%前後ということで、残念ながら児童数は今は増えてはいないんですけれども、今後、全体のパイが増えてくるということで、今後増加することが予想されるだろう、そういう認識を3年間の方向性としては持っています。

現状認識の二つ目が、環境の変化の大きさやスピードの速さの認識をここに書いてございます。情報化やグローバル化が一層進展する社会経済を反映し、今急速に変化をしていること。

そして、現状認識の三つ目が、来る東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控えて、せっかくの機会であるので、子どもたちがこれを機に体力向上、生涯スポーツへの関心を高めることに取り組んでいきたいということでの現状認識を三つ示しています。

今後の3か年の方向性としては、6点掲げています。

大きく三つに分けて考えています。その方向性の中で子どもたちにより特化した問題としては、3点、一つは、健やかな体の調和のとれた「生きる力」を一層育んでいきたいということ。もう一つは、社会の一員としての自覚を持って、地域や社会の発展に貢献する力を子どもたちの中に育てていきたいということ。そして、子どもたちを視点にした三つ目が、日本については、OECD諸国の中で非常に自己肯定感というか、自尊感情が低いというデータも出ていますので、これから社会に羽ばたいていく人材として自尊感情や自己肯定感を高めていく教育活動を実践していきたいということを考えています。

そして、これをどのような形で取り組んでいくかということについて、二つの視点から考えています。

一つは、地域の人材の力を得て、学校、家庭、地域の連携・協力体制の整備を進めていくこと。そして、区内には19の大学がありますので、区内大学と連携した取組、特に不登校対策事業の

強化であるとか、乳幼児から青年期まで継続的な発達支援を大学連携の中で取り組んでいきたいということ。そして、6点目が、一つになるんですが、こういった子どもたちの学びの環境整備ということで、教育環境の向上ということで、老朽化した校舎等の改築や改修を行っていくことや、情報ネットワークの整備を行っていくというハード面の方向性を最後にお示ししています。

おめくりいただいて、6ページ以降についてです。

教育分野については、先ほど第3章の計画事業としてお手元に配ったダイヤモンドの付いているものですが、豊かな人間性の育成から教育環境の整備まで、各項目で事業をぶら下げておりますし、こういうことで次の計画もつくっていききたいというふうに考えています。

そういった中で、この大きな教育の充実が図られたのかどうかということの判断指標としては、四つを掲げています。

大きくは、三つプラス一つというふうに考えていて、一つは、子どもたちをどのような教育環境の中で育成をしていくかの視点です。一つは、生きる力、いわゆる知・徳・体の関係でいくと、知の部分に特化した指標です。

6ページに書いてあるのが、自ら学び考え課題を解決する子どもの育成、全国学力・学習状況調査における国語と算数若しくは数学の授業理解度です。全国の学力・学習状況調査がありますので、「国語、算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか」の項目があります。国語で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の合計と、算数（数学）で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」、いわゆる授業がよく分かるよという合計の平均を指標として掲げていきたいと考えています。指標については、昨年度の取組の継続としてここに書いてあるように、小学校では88%以上、中学校では76.5%以上としています。

7ページにお示しをした部分は、知・徳・体のいわゆる体の部分です。東京都の教育委員会が推奨している「アクティブプラン to 2020」で示された小学校の5年生と中学校2年生の体力テストの具体的目標値の合計点を掲げています。この体力テストについては、例えば、反復横跳びであったり、ボール投げであったり、様々な項目にわたって指標として計算をしておりますが、小学校5年生については、27年度の実績値が東京都の平均を下回っておりますので、都が設定した32年度までの目標値を目指していく。中学校においては、27年度実績が東京の平均を下回っているということで、都が設定した32年度までの目標値を目指していこうと思っております。

おめくりいただいて8ページです。

この部分については、知・徳・体のいわゆる徳の部分の「人の役に立つ人間になりたいと思う」項目における肯定度を指標といたしました。

教育振興基本計画では、この知・徳・体のバランスのとれた力の育成を目指していて、この全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目に「当てはまる」と回答した割合を指標としていきたいと考えてございます。小学生の中では78%以

上、中学校では71%になることを目標としています。

最後四つ目の指標が、不登校の関連に対する指標です。現在、結構不登校については、小学校で60人程度、中学校で30人程度を数えていますけれども、この割合をなるべく減らしていきたい、それにはいずれの関係機関にも関わっていない子どもたちの数を減らしていきたいというふうに考えています。

不登校の背景は様々ですし、より生徒一人一人の気持ちに寄り添った対応を行っていきたくて考えていますので、いずれの関係機関にも関わっていないという生徒の割合を少なくしていきたいと考えています。

小学校では、いずれの機関にも関わっていないという人数を、毎年3.5ポイントずつ減少させて、31年度までに1.4%としていきたいと考えています。

中学校では、同様に毎年2ポイントずつ減少させて、1.2%とすることを31年度までに目指していきたいと考えています。

教育分野についてのご説明については、以上になります。

○源部会長 ありがとうございます。

質問等がありましたらカードに書いていただいても結構ですので、ちょっと時間をとって、また同じように今後3か年の方向性と指標についてということで、ご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

(意見抽出)

○源部会長 では、また意見交換で、今石倉さんが書いたのをいただいてから、ちょっと先に少しだけ発言を。ごめんなさい、ちょっと時間が限られていますので。

方向性と指標というふうにあります。ちょっと読んでいきますね。地域とのつながりが見えないんじゃないか。産業振興と絡めて商店街の英語メニューを中学生がつくるとか、ホームページをつくってあげるとか、また、地域の商店街とのつながり、地域とつながりが見えない。

○加藤部会員 今ちょっと次の項目の2-3、1-3を読んだので、もしかしたらこっちに入るかもしれないんですけども、ここで地域と社会の発展だったり、地域ぐるみの学校支援みたいな話があったので、産業振興のときに参加してちょっとそこでも述べたんですが、ほかの政策と絡めてもいいんじゃないのかなと思います。そうしたほうが、より活性化しやすいんじゃないかなと。例えば、商店街で英語ができないみたいな話があったので、それを中学生にしてもらって、英語も勉強できるし、それをしてくれるコストも掛からないし、NPO団体がいろんな中学生に教育をしたりとか、活動している方がいるので、それをマッチングするだけで区は何もお金も掛けずにできるのかなということも思ったのです。地域とのつながりということを書いてあったので、もっと活性化させるようなものを今政策に入れたり、指標に入れたりするといいのかなと思います。

○源部会長 なるほど、地域活動、学校支援とかあるのでというところですかね。

こちらは、もしかしたら、また青少年の健全育成のほうにも関係するかもしれませんね。次回のほうに言うておきます。ありがとうございます。

平成27、28と予算増だが、どの施策が手厚くなったのか、評価表か政策評価にあるとわかりやすいということですね。

○加藤部会員 平成28年度基本構想実現度評価表の総事業費がすごく、平成27年、28年と上がっているの、そうすると、どこかの施策がすごくお金を掛けているのかなと。もしかしたら学校の建て替えでそれだけ増えているのかもしれないけれども、そうではなくて、どこかの施策にすごく注力をしてということであれば、そこがこちらだと見えないので、それが見えると分かりやすいと思います。

○源部会長 そちらのほうは、2回目に見ていく、もしかしたら。

○加藤部会員 だから、どれに注力していますみたいなのが、少しあってもいいのかなと思いました。

○源部会長 こちらのほうでね。なるほど。

○久住教育推進部長 ちょっと補足だけ。先ほど言えばよかったですけれども、学校の整備等々の指標については、あえて入れませんでした。具体的にここで大きくなっているのは、学校の快適化だとか、学校の工事の関係でどんと大きくなるんですね。それは我々事務方のほうが、事業者と努力をしてやっていくことになれば、達成率はかなり上がっていくので、それよりも別のところを大きな指標としての判断に盛り込んだほうがいいのかということ、あえて入れなかった部分はあります。ただ、そっちのほうは逆に教育環境を豊かにするというものでいいということであれば、それは、またこちらでご議論いただけると有り難いなというふうに思いますけれども、現時点での判断は、そういう判断をしているということだけはお伝えをしておこうと思います。

○源部会長 代表的指標として入れなかったということですね。

○久住教育推進部長 入れなかったということです。

○源部会長 あとこれは、恐らくそれに加えて、また予算増でどんなふうに、どこが手厚くなったかも知ってみたいということですね。

○加藤部会員 そうですね。背景に限らずになのかもしれないですね。

○源部会長 これは、またそういう機会が次回にあると思いますので、ありがとうございます。

文京区が上回って教育とか、上回っているのは、これは1番の指標ですかね。

○渡部部会員 そうですね。私です。意見というよりは、単純な質問なんですけれども、小学校においても中学校においても、全国学力・学習状況調査の授業理解度が上回っているのは、区としてはどういう評価をしているのかなと思います。

○源部会長 質問という意味ですか。

○渡部部会員 教育が。

○源部会長 なぜかですね。どういう要因があって上回っているんだろうかと、区は考えているかという、議会質問みたいですみません。はい、お願いします。何かもし一言あれば。

○久住教育推進部長 一つはですね、やはり家庭における学習時間というのが、大きな要因を占めていると思います。平成25年の全国学力調査をお茶の水女子大学の耳塚先生という方が詳細に調査をしていて、学力との関係については、やはり家庭における学習環境の充実というのが相当数大きな割合を占めているということ。それと、区立の学校で行っている授業等も非常にレベルの高いものはあると思いますけれども、それだけではなかなかうまくいかないというのはあるので、やはり家庭における学習環境の充実、環境といったものが一つの大きな要因かなというふうには認識しています。

○源部会長 よろしいですか。

○渡部部会員 はい。

○源部会長 それから続けて、こちらも体を改善する方法、これは小・中学生の体力の増進というところですね。

○渡部部会員 これも私の質問なんですけれども、下回っているため向上させますといっても、体力を向上させるというのは、どうやってと単純に思ってしまったんです。

○源部会長 単純にそう、みんながうなずいています。体力を向上させるというのは、どうさせるんでしょうか。

○渡部部会員 方法論をお聞きしたいなと思ったんです。

○源部会長 なるほど、事業のほうに入っているんですかね。何か一言ありますか。

○久住教育推進部長 今順天堂大学と小学校はコラボレーションをして、学校ごとの体力向上メニューをつくっていただいております。幼稚園については、お茶の水女子大学と協働で取り組んでいます。

それから、中学校については、体育の専科の教員がいますので、そういった専科の教員の研究会等々の中でどのようなことをやったほうが体力の向上につながるのかという、その三本柱で取り組んでいますので、それを継続していこうと思っています。

○渡部部会員 今のお話の中では、幼稚園というお話だったんですけれども、保育園はないんですか。

○久住教育推進部長 保育園は、知見を活用してということで情報共有しております。

○源部会長 このご質問はあれですよ。今どういうことをやっていて、こういう効果をもたらそうとしているのかということを知りたいということですよ。

○渡部部会員 そうです。

○源部会長 そういうことですよ。それが妥当であるかどうかわからないからということですね。

区立中学校への進学率が高くない中で、保育園、幼稚園・小・中が連携する意義は何だろうか。

むしろ区立中高一貫のほうが、魅力的な支援のアップにつながるのではないか。

○加藤部会員 政策の中で幼稚園から高校まで一貫してみたいなことがあったものの、私の子どもはまだ保育園なので、まだ先のことを考えていなかったんですけども、別の知り合いのお母さんで小学生、中学生の子どもがいる方が中学受験をする方がすごく文京区は多いので、なので中学進学率が低い、指導の人数が減っているという話を聞いて、それなのに小中一貫校を考えているらしいと又聞きなのであれなんですけど、よりも中高一貫のほうが公立学校に入れるメリット、高校受験が大変なので中高一貫に入りたいみたいの方がすごい多い中で、そっちのほうが有り難いのにみたい話があったので、そういったことは何か検討されているのかなと思います。もちろん連携するのはいいと思いますし、保育園の子が幼稚園に訪問したりしているのは、うちの子もしているんで、学校を越えてというのはすごくいいことだとは思いますが、そういう子の意義みたいなのを考えられて、こういう政策があるのかなというのがちょっと気になった点です。

○源部会長 はい、一言。

○久住教育推進部長 中高一貫ができればおもしろいなと思うんですが、なかなか縦割りの回答で申し訳ないんですけども、東京都がこうやって所管をされていて、文京区の場合だと、小学校、中学校までという所管があります。なかなかそこでの一貫教育、一貫校というのは、文京区が公立の高校をつくるかという判断が求められているので、そこはなかなか人材の確保等々の関係で、かなり難しいのかなという認識は持っています。

○牛嶋部会員 ちなみに23区で高校はあるんですか。区立の高校。

○加藤部会員 千代田区とかは中高一貫校が三つ、四つあります。

○牛嶋部会員 区立。

○加藤部会員 ちょっとわからないですけども。

○久住教育推進部長 区立の高校はちょっと聞いたことが、調べておきます。

例えば、小石川高校であったり、両国高校であったり、中高一貫をやっているのは、東京都の中高、都立ですね。

○弘世部会員 でも千代田区立の九段は、中高の区立です。

○加藤部会員 相当教育熱心なご両親が多いと。

○久住教育推進部長 そうですね。そこはちょっと確認をして次回ご報告いたします。

○源部会長 では、ちょっと調べていただいて。

○加藤部会員 ありがとうございます。

○源部会長 効果があるというのを共有しているみたいですよ。なかなか総合的に難しい。

ちょっと急ぎます、すみません。真ん中を見まして、豊かな人間性として何を求めるのか、目標と指標をマッチングしていない。

○石倉部会員 すみません。ちょっと先走って言っちゃいました。今、目標に掲げているのは、

人の役に立つ人間になりたいと思うかどうかというところが、指標に設定されているので、それが豊かな人間性と本当に一致しているのであればいいんですけども、もうちょっと幅広い概念なんじゃないかなとは思いますが。

いろんな意味で、例えば何でしょうか、芸術に秀でていたらいいと思うし、例えば、先ほど体の話が出たんですが、一つではないと、勉強ばかりじゃないという意味で、うまく掲げられているんだと思うんですね。いわゆる道徳的な部分においても、当然学力以上に大事なところがあると思うので、設定されていると思います。

なので、本人たちが役に立ちたいと思うのは、当然あるとは思いますが、ちょっと我々が目指すべきものがちょっと不明確過ぎて、この指標が本当にそれでマッチしているかどうかというのは、ちょっとこれは疑問がある。

○源部会長 ちょっと疑問があると。これは3のほうの指標ですよ。3の指標に関して、これも3でよろしいですかね。質問が具体的にどんな職につきたいのかと言ったほうがわかりやすいんじゃないかというご提案ですが、3でいいんですよ。

○加藤部会員 はい、3です。このほうがわかりやすいかなと。具体的に何になりたいとか、どういうことをやって人の役に立てるのかとかいうのがわかりやすいかなと思います。元の質問が正しいかどうかわからないですけど。

○源部会長 ただ、ちょっと人の役に立つ人間になりたいと思うというのは、どうかなと思ったんでしょう。

○加藤部会員 そうです。それはあります。

○源部会長 なかなかこれは難しいですね。それから、これは2ですかね。ボランティア。

○石倉部会員 ごめんなさい。それは先ほどの目標のマッチングしていないというところの具体例として、一つは、そこに書きました。例えば、ボランティア活動に従事した上で、勉強以外の部分での人との関わりの中で、社会に育ててもらおうという部分が僕はあるといいと思うので、そういったところも一つ指標に入れてもおもしろいんじゃないかということで、ちょっと提案をしました。

○源部会長 これは3ですね。多分3はこれでいいのではと。

これは、1に関してだと思います。本人が理解できるとアンケートに回答した結果に左右されるのは、いかがでしょうか。直接的に成績ランク等で上位となることを目標とすべきではない、これは1ですね。

○石倉部会員 はい、1番ですね。ちょっとごめんなさい。私はてっきりこれは学力で評価しているものだったんです。よくよく見ると、この全国の学力・学習状況調査において、多分これはアンケートで答えているものだと思うんですけども、そういう理解でよろしいですかね。なので、多分僕がこのアンケートに答えたなら、ばかだと思われたくないので理解できますと、わからなくても多分丸を付けると思うんですね。

区の行政が、そういった本人たちのアンケートに振り回されるというのは、ちょっとどうかなと思ってまして、よく小学校でも学校評価というのをやるんですね。そのアンケートにも保護者のアンケートだったり、生徒本人たちのアンケートで、よしあしを判断している部分があるので、ちょっとそういったものに振り回されるのはどうですかというのをいつも意見として出させてもらっています。

ですので、こういった指標の場合には、むしろ直接的な手法、つまり理解しているということは、点数に表れてきますので、そういった部分で、いわゆる定量的な設定をすべきじゃないかなということで出しました。

○源部会長 もっと客観的な指標を捉えたほうがいいんじゃないかというご意見になります。

それから、テストのときだけではなく、そこに至るまでの支援が重要なんだ、そのためのコンセプトはあるのか。結果だけじゃなくて、その支援ですね。

○加藤部会員 ポイントで学力テスト、理解度を測る、アンケートをする、対象の学年であったり、小5、中2のタイプテストみたいなのがあったので、それまでの過程があって初めてそこでポイントが上がるのかなと思ったので、先ほど体育に関しては順天堂大学とか、お茶の水女子大学と協力してというお話を伺ったので、テストに関して何かあるのかなと思います。それがあれば、そこには書いてあると、わかりやすいと思いました。

○源部会長 そこに至るプロセスもちゃんと見たらどうでしょうかということですね。ありがとうございます。

なぜ国語と算数だけなのか、国語、算数の理解度じゃなく、ICT教育の評価もいいんじゃないか。これらについてです。

○長岡部会員 普通に何で国語と算数なのかなということですか。

○源部会長 とりあえずは、どうですかね。

○長岡部会員 アンケートなら、どれでもよかったのかなという気がしたので、すみません。

○源部会長 いえいえ。これはちょっと一言だけいただけますか。なぜ、国語と算数なのかなということだけ。

○久住教育推進部長 基本5教科といわれているものの中で、結構ばらつきとかがあったり、テストとしてやらなかったものもあったりするので、基本的に毎年必ずやるものというのと、国語と算数は鉄板なものですから、そういう意味では、国語と算数を一つのメルクマールにしてあるということですか。

○源部会長 ほかにあるんじゃないかというものがあるんですけども、ちょっと先に行かせてください。こちらのICT教育。

○牛嶋部会員 これは豊富が自ら学び考え、課題を解決する子どもの育成ということなので、ずっと国語と算数の理解度というのは、ちょっとこの辺の評価としては違うんじゃないかなというのがあります。

それで、ICTに関しては、うちは子どもが対象で、去年からICTの簡単なモデル校をやっていたみたいで、その報告会にちょっと参加させていただいたんです。結構やっていることが、本当に自ら、ちょっと内容は忘れちゃいましたが、学び、考え、解決するという取組をICT、そのタブレットとかを使ってやるということを本当にやっていて、内容については、非常にいいなと思ったところなんです。

なので、そういったところを、ちゃんと評価してあげるといいかなと思っていて、評価もなかなか数値化は難しいかもしれませんが、何かいろいろ公開したりとか、ほかの先生が見に来たりとか時々しているんだと思うので、その善し悪しの評価というのはできるんじゃないかと思います。せっかくやっていることは結構素晴らしいなと思っていて、そういったところを評価してはと思います。

○源部会長 なるほど。ありがとうございます。国語と算数だけなのかにも通じるかもしれませんが、学び、考え、課題を解決する力ですね、そういうところをどういうふうに見たいのかという一つのご提案ということでございます。ありがとうございます。

こちらは全部4番目ですかね。不登校に関するものです。ちょっとまず全部読ませていただきますので、またご発言をお願いします。

不登校を発生させないことを指標とすべきでは。不登校を発生させないという前段階の手法も入れるべき。これは同じですよ。不登校児童数割る区児童数、不登校児童は新たに児童は識別された人というご提案、これとこれはちょっと同じような感じですけど、ご発言いかがですか、不登校は。

○渡部部会員 一番上ですけども、一番初めにこれを見たときに、不登校を発生させないのが一番なんじゃないのかなというふうに思った意見です。

○源部会長 これは、今この指標のほうは、不登校児童・生徒の率ということですか。

○石倉部会員 例えばということであって、具体的にそういう数字も拾えるのであれば設定してもらって、発生してからの基本的な対応というのは、当然されていると思うので、当然その前の段階で、そもそもそういった児童数を発生させないという取組をされていると思うので、そういったところも、合わせて評価してはと思います。

○源部会長 今のは同じですよ。ご意見、ありがとうございます。

それから、不登校児を減らすことを目標にしないでほしいということなんですけれども。

○牛嶋部会員 これはちょっと当事者として声を大にして言いたいところなんですけれども、不登校にもいろいろ理由があって、例えば、いじめとかで学校に来られなくなっちゃったみたいなのというのは、やはりそれは解決すればその子がちゃんと登校できてというふうになるかと思うんです。うちは発達障害の息子を持つものとしては、そもそも学校、要するに、とにかく人が集まるようなところが駄目みたいなのがあって、今もちょっと学校へ行けていないので、来年からは中学も不登校の予定なんですけど、やっぱりそういう人にとっては、学校に来させようとする

ること自体が、非常に苦痛なわけですから。ですので、今ちょっとぼしゃったフリースクール法案と
かありますけれども、そういう学校に行くことを良しとしないという方向で、必ずしもそういう
そもそも行きもしない人に学校に来させようとしなくてほしいということと、あとそこに書きま
したけれども。

○源部会長 こちらに関係しますよね。学校復帰と社会的自立は違うと。

○牛嶋部会員 社会的自立というのは、もちろんうちもしてくれたいほうがいいと思うんですけれ
ども、ただ、それと別に学校へ行くというのは、同じではないので、社会的自立の支援をしてい
ただくというのは、非常にいいんですが、それと学校復帰をちょっと並べてほしくないなという
のが当事者の意見です。

○源部会長 はい、わかりました。また、複数の指標というのが考えられるということですかね。
あるいは、いろいろなとり方があるかと思います。

○牛嶋部会員 はい。ちゃんと学校に行きたい人が行けるようにするというのは、大事だと思う
ので。

○源部会長 はい、わかりました。というご意見でございます。

○久住教育推進部長 ちょっと誤解のないようにいいですか。二つあるんですけれども、不登校
の出現率については、昨年までの指標として掲げていました。昨年までについては、不登校児童
の出現率ということで、正にそこにご指摘されているものを指標として捉えていたんですが、も
うちょっと子どもの気持ちに寄り添った対応が必要だろう、そのほうがいいんじゃないかとい
うことと、今牛嶋部会員からご指摘があったように、教育委員会の所管になるんですけれども、教
育委員会としては、学校に来ることを目指しているわけではありません。基本的には、ここに書
いてあるように、背景が多様でいろいろな要因があるので、そこで少しでも子どもたちの小さな
変化を支援していきながら、究極的に学校に来てもいいし、フリースクールに行ってもいいし、
その子らしく実現ができればいいだろうなというふうに思っています。学校に何が何でも来るこ
とを究極の目的とするのではなくて、小さな変化を積み重ねていくことをより丁寧にやっていく
ということで、今回関わりのない人たちを減らしていこうということです。

全く関わってほしくないという家庭の方のガードで、全然関わりを持たないケースが結構ある
んですね。そこを何とか小さな糸をつなぐような形で、保護者の方と連絡を取り合いながら相談
につなげていきたいといった努力をしていったほうが、指標としては、より子ども一人一人の気
持ちに寄り添った対応ができているという考えになるのではないかという判断をしたところなの
で、またそこは皆さんでご議論いただくと有り難いと思います。

以上です。

○牛嶋部会員 もちろんいろいろあって、やっぱりコンサルテーションによって、やっぱり学校
にちゃんと来てやったほうがいいよというふうになるケースももちろんたくさんあるかと思いま
すので、そういうので是非やっていただければということです。

○源部会長 はい、わかりました。ありがとうございました。

続きまして、関係機関とかかわることで立ち直れることが大事、今の指標は間接的であること、ストレートに立ち直るといふのを指標としてはどうかという。

○石倉部会員 ちょっと今補足でご説明いただいたので、関与していない人の数を減らすというところがね、ちょっと目標としてちょっと間接的なのかなというふうに感じましたので、むしろ機関によっていろいろ連携をとりながら努力されたことによって、今対象となった児童さんたちが、何らかの形で立ち直っていけるというのは、なかなか難しいと思います。何をもって立ち直ったというんだというところは難しいと思うんですけども、よりストレートに設定をされたほうがいいのかなと思ったものですから。

○源部会長 今のお話の関係ですね。ありがとうございます。

最後に、保健室登校の指導はあるんでしょうか。はい、どうぞ。浅見さん。

○浅見部会員 実際に娘が区立小学校に通ってまして、保健室に登校される方が結構いるという話を聞きまして、不登校から立ち直ってきたのか、そのなりかけなのか、ちょっと過程にあるのかはわからないんですが、そういう方たちの支援を何かしていただけているのかなと思います。

○源部会長 今後発生させない、いろいろ仕組みということですかね。では一言。

○久住教育推進部長 不登校の方については、保健室登校だけじゃなくて、校長室登校というものもあります。ですから、学校までは来るんだけど、教室に入れないというお子さんが結構いらっしゃるんで、であれば保健室でもいいし、校長室でもいいよということで、校長室に具体的に子ども用の机と椅子を置いて、本を広げられるような環境をつくっているところもあります。そこは、いろんな形での状況に応じた支援をやっているところがございます。

○源部会長 はい、ありがとうございました。ちょっと最後のほうですけども、全体で情報化、グローバル化が指標に入っていないんじゃないか。

○渡部部会員 日々、児童によってですね、ITリテラシーというのは、すごく大事なことなんですね。目標にも、ここでは最初のところに掲げてあるんですが、実は指標を見ると、何か少し一昔前の昭和の香りが、情報化、グローバル化の実現が指標に入ると、何となく親としてはうれしいなということがあります。

○源部会長 先ほどICT教育のときにおっしゃっていましたが、そんなのも関係するのかなと思います。

では、こちらのほうですね、中村さんからいただいた教育の質、内容、期待することということでございますよね。ちょっと読みますので、後で一言いただければと思います。

教育とは、付け加えるばかりでなく引き出すものであると言われてきている。教育とは、社会的に不当なことを少しでも解消する方向に行くことが求められている。知的教育に偏った現在が不登校児童などを生み出していることを反省する。それから、マスコミの異常な発達の中で、むしろ個の確立を促す教育が望ましい。これは中身の質的なことについてですが、一言ありますか。

○中村部会員 何か今いろいろお話を伺っていて、具体的なお話が多いのに、私ばかり何か抽象的なことばかり言っているようで恐縮なんですけど、ここに基本構想と書いてありましたので、基本的なことというのは、どうしても抽象的な問題があると思ひまして書きました。

それで、今不登校のことでいろいろとお話がありました。望ましいことではなく、当然のことですけれども、知的な教育に傾き過ぎると、どうしても、それについていけないような子どもさんが出てくる。むしろ、児童憲章に書いてあるように、そういう人の良さを引き出していく、その努力をするときに、やっぱり自分も存在価値があるなと子どもさんが感じ、そこから教育が発しないと、自信がない人に幾ら教えたって上のそらなんじゃないかと思ひます。

それから、私はやっぱり人間にとって知的教育は、最も大事なことの一つですけれども、同時に人間としてどう生きるかということ、幼いときから教えるということも大切なことじゃないかと思ひます。それには、もし許されるならば、徳育という言い方がありますが、私は残念ながら長く生きてきて、これほど知的じゃなくて、徳育的な劣化状況を見たことないです。日本で、文京区で最高と言われている大学の先生が、公私の別もわからないようなお金の使い方をしたと、こんな訳のわからない話はないと思ひたんですね。けれども、私はやっぱり徳育的なものをもう少し力を込めて入れていただきたいと思ひます。

知的なことは、どうでもいいなんて言っているんじゃないかと、もちろんそれはそれで大切なんですが、それこそが人間としての生き方であり、大きく育っていくのではないかな。私の叫びみたいなものです。ありがとうございました。

○源部会長 ありがとうございます。豊かな人間性の育成を豊かとはどういうことかという、そういうことにつながるお話だというふうに思ひます。ありがとうございます。

以上をもちまして、時間をちょっとオーバーしましたけど、今日ご意見をいただくということで、本当にそれぞれのお立場からいろんなご意見をいただきました。ありがとうございます。

今日の部会は、これで終わりですけれども、2回目は、まだもう一つございます青少年の健全育成で、どうぞたくさんのお意見をお待ちしておりますので、よろしくお願ひいたします。

最後に、事務局のほうから。

○加藤企画課長 お疲れさまでした。

私のほうから、スケジュールのほうを確認させていただきます。

次回、この部会の2回目は、7月22日の金曜日、場所については、本日と同じ場所になります。

また、明日も、まちづくり・環境部会があります。この部会の中でも、そちらのほうに参加していただいている方もいらっしゃいます。そちらは、まちづくり・環境部会1回目ということで、5階の会議室Aになりますので、明日は5階の会議室になりますので、よろしくお願ひをいたします。

また本日、使った資料については、全ての部会で使用しますので、お持ちいただきますようお

願いたします。冊子につきましては、お荷物になりますので、置いていっていただければ、次回もご用意させていただきますので、よろしく願いたします。

連絡は以上です。

○源部会長 本当は最後、これらをまとめて発表するんです。すみません。時間が無くなっちゃって、ただ、もう皆さん、議論の中できれいにまとめていただいたので、大体イメージはもうあると思います。

どうも今日はありがとうございました。